Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から
石井敏夫コレクションより

第80回（最終回）

昭和時代の宇都宮

昭和 14 年ごろの大通り。トラックやバスに交じって自転車が行き交う。二荒山神社前付近

大正時代は、大正天皇の逝去により十五年でその幕を閉じた。一九二六（大正十五）年十二月二十五日同日、皇太子裕仁親王が改元の詔書を公布、時代は昭和へと変わった。昭和時代は、太平洋戦争による敗戦を挟んで、戦後復興、高度経済成長へと続き、まさに現在の礎を築きあげた。どこか郷愁を誘う「昭和」の響きは、激動の時代を生き抜いた名もない民衆の血と汗の結晶であると言ってよい。

『宇都宮市史第七巻』に記された「第七章　世相の推移『昭和戦前』」から宇都宮の変遷を見ていきたい。一九二七（昭和二）年一月十三日、松永和一郎が五代目市長に就任。四月一日、「八幡山公園」が開園した。翌二八（昭和三）年四月、「栃木県商工奨励館」と「県公会堂」が、五月には大谷石づくりの「宇都宮商工会議所」が竣工した。

一九二九（昭和四）年六月二十二日、石田仁太郎第六代市長が誕生。三一（昭和六）年八月、高屋敷と呼ばれた刑務所跡地に「東武宇都宮駅」が完成、浅草と宇都宮を結ぶ東武宇都宮線が開業した。満州事変が勃発したのは九月のことである。翌三二（昭和七）年二月、第十四師団が上海事変に向けて出動（同年四月十七日凱旋）。大谷石づくりの「カトリック松が峰教会」が竣工したのもこの年である。

一九三三（昭和八）年二月二十日、河合長蔵が第七代市長に就任した。四月二十八日、「新国道（現東京街道）」が竣工。三五（昭和十）年五月、県庁前に「教育会館」が、八月には鉄筋づくりの「中央小学校」が完成した。

一九三六（昭和十一）年十二月二十八日、落合慶四郎が第八代市長に就任。翌三七（昭和十二）年七月七日、盧溝橋事件が勃発し日中戦争が始まった。これにより第十四師団が満州に向けて出動。一九三八（昭和十三）年十月三日、鉄筋コンクリート四階建ての「栃木県庁」が竣工した。またこの年の四月、「国家総動員法」が公布され、日本は戦争の時代へ突入していく。

市政は太平洋戦争下、第九代入江操市長（昭和十五）、第十代江原三郎市長（昭和十九）と間断なく続いた。しかし宇都宮市は、一九四五（昭和二十）年七月十二日、アメリカ軍の空襲を受け、市街地の大半が壊滅。戦争が終わる僅か一カ月前のことだった。

昭和13年10月竣工の四代目県庁。まだ、前庭は未整備

●今回を持ちまして「一枚の絵葉書」からの連載を終わらせていただきます。貴重な絵葉書を80回にわたりご提供くださいました石井敏夫氏に感謝申し上げます。ありがとうございました。（編集子）